

|            |  |              |  |      |  |
|------------|--|--------------|--|------|--|
| 科目名        | 化学物質に関するリスク評価とリスク管理の基礎知識   | 拠点<br>(開講機関) | メイン会場: 大阪・コスモスクエア<br>サテライト会場: 東京・名古屋<br>(製品評価技術基盤機構) | 講義日時 | 10月31日(水)<br>10:00~17:50<br>11月1日(木)2日(金)<br>10:00~17:20 |
| 科目概要(300字) | 化学物質は私たちの生活の身近なあらゆるところで利用されています。私たちが化学物質の恩恵を享受するためには、化学物質の性質や使用するリスクを正しく理解し、行政、企業、市民が一体となって、化学物質管理を行うことが大切です。本講座では、化学物質管理に携わる方々が実践で役立つように、化学物質のリスク評価や具体的な事例の紹介、化学物質管理制度や諸外国の状況など、化学物質管理制度全般についてその背景とともに解説します。普段触れることが少ない消費者とリスクコミュニケーション手法についてもワークショップ(実習)を行います。本講座は、企業等で化学物質管理の実務に携わる方、今後携わる方や、化学物質のリスク評価やリスク管理にご興味のある方を対象とします。 |              |  |      |  |

| 科目構成        | No. | 講義                    | 講義概要(150字)   | 講義日       | 時間          | 開講場所                | 講師     | 所属                      |
|-------------|-----|-----------------------|--|-----------|-------------|---------------------|--------|-------------------------|
| 総論          | 1   | 化学物質管理とリスク評価(ワークショップ) | 始めに、本講座の進め方、注意事項などについて説明します。講義では我が国の化学物質管理制度を理解するため、リスク評価の基本的な考え方について解説します。さらに、実際の事例を題材にワークショップを通じて、リスク評価とリスク管理を根幹とする化学物質管理制度の基本的な思想について考えます。              |           | 10:00~12:00 |                     | 竹田 宜人  | 化学物質管理センター<br>調査官       |
| 化学物質管理と情報   | 2   | 化学物質管理に関する情報          | 化学物質管理において、化学物質の法規制や有害性の情報を得ることは重要です。NITEでは、法規制や有害性の情報に関するデータベースを提供しており、これを使った情報の取得方法について解説します。  | 10月31日(水) | 13:00~14:30 |                     | 池上由宇真  | 化学物質管理センター<br>情報業務課     |
| 海外の化学物質管理   | 3   | 国際的な化学物質管理            | 化学物質がもたらす悪影響を最小化するために国際的な化学物質管理に関する取組が進められています。これを踏まえた国際的枠組み、欧米の化学物質管理制度の概要及びアジア諸国におけるNITEの取組み等について解説します。化学物質管理に関する最新の国際動向や、諸外国の制度の理解を深めることができます。          |           | 14:40~16:10 |                     | 岡田佳寿美  | 化学物質管理センター<br>計画課 国際企画室 |
| 化学物質管理と情報   | 4   | リスクコミュニケーション(ワークショップ) | 社会全体で化学物質を適正に管理するためには、関係者間で情報を共有し、理解を促進することが不可欠であり、それを実現する手法の一つがリスクコミュニケーションです。企業におけるリスクコミュニケーションの基本的な考え方、その手法や、事例について知るとともに、ワークショップを通じリスクコミュニケーションを体験します。 |           | 16:20~17:50 |                     | 竹田 宜人  | 化学物質管理センター<br>調査官       |
| 日本の化学物質管理政策 | 5   | 化審法の運用とその概要           | 「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」(化審法)の運用における基本的な考え方について、法律の概要とともに解説します。特に、法における化学物質の定義や物質区分の仕方、法に基づく各種届出とその情報の活用方法について詳細に紹介し、理解を深めます。                               |           | 10:00~11:30 |                     | 佐藤 維麿  | 化学物質管理センター<br>調査官       |
| リスク評価       | 6   | 化審法における分解性及び蓄積性評価     | 化審法の新規化学物質の届出にかかる生分解性試験、生物蓄積性試験、高分子フロッスキーム試験の概要を説明し、具体的な判定事例を紹介いたします。  | 11月1日(木)  | 12:30~14:00 | 製品評価技術基盤機構<br>大阪事業所 | 山名 真司  | 化学物質管理センター<br>安全審査課     |
|             | 7   | 有害性評価(人健康影響)          | 化学物質のリスク評価を実施するには有害性の評価は必須です。特に人への有害性評価は、通常、実験動物を用いた試験等から外れます。化学物質で発現する主な有害性について、GHS(化学品の分類および表示に関する世界調和システム)を用いて説明すると共に、リスク評価に用いる有害性の値の導出方法について学びます。      |           | 14:10~15:40 |                     | 中村 るりこ | 化学物質管理センター<br>情報業務課     |
|             | 8   | 有害性評価(生態影響)           | 化学物質の動物種に対する毒性についての評価方法を紹介します。化学物質の有害性クラスの付け方などを身につけることができます。  |           | 15:50~17:20 |                     | 清水 将史  | 化学物質管理センター<br>リスク評価課    |
|             | 9   | in silico評価手法の活用      | 化学物質の安全性評価における動物実験は世界的に削減の流れにあり、化審法や欧米の規制行政では、動物実験代替法の1つであるコンピュータを用いたin silico評価手法が活用されています。化学物質の安全性評価で活用されているin silico評価手法の概要と規制行政での活用状況について紹介します。        |           | 10:00~11:30 |                     | 桑 詩野   | 化学物質管理センター<br>安全審査課     |
|             | 10  | 化学物質の暴露評価とリスク評価       | 化学物質の安全性を判断するには有害性だけでなく、化学物質からの暴露量を知ることが重要です。環境を通じて受ける暴露量や、それを用いてリスク評価を行う方法を解説します。環境を通じて化学物質の暴露量からリスク評価を行う方法の概要を理解することを目的とします。                             |           | 12:30~14:00 |                     | 玉造 晃弘  | 化学物質管理センター<br>リスク評価課    |
|             | 11  | 消費者製品に含まれる化学物質のリスク評価  | 身近な消費者製品に含まれる化学物質に対し、製品の使用などに伴う消費者の暴露及びリスクの評価方法について解説します。消費者用製品に含まれる化学物質のリスク評価方法の概要を理解することを目的とします。   | 11月2日(金)  | 14:10~15:40 |                     | 藤原亜矢子  | 化学物質管理センター<br>リスク評価課    |
| 日本の化学物質管理政策 | 12  | 化管法の考え方と活用方法          | 「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(化管法)における、排出量報告・集計・公表制度(PRTR)や化学物質提供時の情報提供制度(SDS)の基本的な考え方を解説し、国が公表するPRTRデータの活用方法を紹介します。これにより、自主管理の方法に関する理解を深めることができます。 |           | 15:50~17:20 |                     | 小柳 尚史  | 化学物質管理センター<br>リスク管理課    |